



Sponsor a Child

クリスチャンパートナーズ

通信第 104 号

-
- | | |
|---|-----------------------------------|
| ・発行日／2019年11月30日 | ・発行所／クリスチャンパートナーズ |
| ・事務局／〒422-8053 静岡市駿河区西中原
2-7-63-111 竹澤三佳子方 | ・Tel/Fax 054-283-1721 |
| ・郵便振替口座／00150-0-134994 | ・e-mail/sunflower818@hw.tnc.ne.jp |
| | ・http://www2.wbs.ne.jp/~c-p/ |
-

宣教者パウロと紫布の商人リディア

理事長 木ノ内一雄

(新約聖書 使徒言行録15章22~16章39)

キリストの使徒パウロは三度の宣教旅行を行い、アジア（現トルコ）とマケドニアとアカイア（現ギリシャ）に福音を伝えました。二度目の旅行では、シラスを伴ってアンテオケ教会を出発しました。途中、テモテと出会って彼を加えました。パウロたちはエフェソに行こうと思っていたのですが、聖霊がそれを許さず、トロアスまで行きました。その夜パウロは幻で、一人のマケドニア人が「マケドニア州に渡って来て、わたしたちを助けてください」と願うのを見ました。それで三人はマケドニアに渡り、ローマの植民都市フィリピに行きました。

安息日に、彼らは祈りの場があると思われる川岸に行きました。そこには婦人たちが集まっていたので、彼らも座って話し始めました。すると主はそのうちの一人、リディアという女性の心を開かれました。彼女は紫布を扱う商人で裕福でしたから、三人を家に招き入れ、パウロたちは彼女の家を拠点として伝道し、リディアの家はフィリピ教会の始まりとなりました。

2011年に私は、アフリカで宣教師として奉仕していた米国人夫妻と一緒に、ガーナ、ガンビア、セネガルを訪れました。その時、その宣教師が話してくれたことは興味深いものでした。〈伝道のため、ある村に入ると、その村の長老のところへ行って挨拶をし、宣教することの承諾を得ます。それからリディア、つまり伝道の協力者を探すのです。神が必ずその村にリディアを、つまり伝道の協力者を用意されているからです。リディアは私たちが待っていたかのように福音を受け入れ、伝道を助けてくれるのです。〉

主は幻をもってパウロに、マケドニアに渡って伝道するように求められました。パウロ自身は長い間フィリピに留まることはできませんでしたが、リディアたちを用いて教会の礎を置かれたのです。宣教者は、このような神の声を聴いて、宣教地に赴きます。神がパウロとリディアを用いて宣教の実を結ばせたように、今日も御言葉は伝播していきます。

抄訳 理事 木ノ内和美

2018 年度は昨年度と大きな違いはなく、神のご加護のもと、奉仕者の健康も守られ、よい成果を上げることができました。伝道者たちは各地を回って旧交を温めるとともに、新しい地域を開拓して教会を立ち上げ、多くの人を信仰に導くことができました。

五つの使徒訓練のプログラムを開始することができました。異なるレベルの伝道者のための研修を二回：一つは公の場や教会での自制心を養うためのもので、もう一つは伝道の方法についてで、すべて成功裏に終了しました。

スポーツを通しての青少年対象のプログラム、婦人たちへの教育的な生活向上の集会と、指導者への訓練プログラムは成功裏に終了しました。皆様の祈りにどんなに力付けられているか、計り知れません。

1. 伝道活動

伝道者のたゆまない努力により、豊かな成果を上げることができましたが、交通手段が自転車やボートに限られているので危険や困難が伴います。オートバイなどより機能的な手段が与えられることを祈っています。

2. 養護施設・学校運営

子どもたちは元気に成長しています。支援してくださる方々に感謝の言葉を言っています。学校に出席する子どもは小学 6 年までで 305 名いますが、まだ校舎が建てられず、野外の木の下で学んでいます。ご支援をいただいて校舎建設が実現しますように祈っています。



救援の食料などに喜ぶ養護施設の子どもたち

3. 山羊育成プロジェクト

私たちの伝道の業の中で中心的な役割を果たしています。このプロジェクトは、貧しい人々を救済し、生活の質を向上させるだけでなく、伝道の業にも貢献しています。今年はこの事業だけで 20 名がキリストに導かれました。15 頭の山羊を購入し、10 人の女性と 5 人の男性に分配しました。さらなるご支援によって貧しい人や、寡婦、親を失った子どもたちの自立への道が開かれます。今まで飼育に携わった人々から、感謝の言葉がきています。

4. 農業

私たちは農作業の方法や家畜の飼育方の訓練を行ってきましたが、度重なる洪水によって農作物を流される被害に遭いました。さまざまな訓練によって、婦人たちは手に職を持つ機会を与えられています。



婦人たちの勉強会

5. 青少年伝道

サッカーの試合を開催し、試合後に彼らにキリストの言葉を伝えていきます。彼らは楽しみにしていて、年中行事にしてほしいとっております。

6. 災害

2018年9月に洪水、2019年6月にアモス師の家が火災、全焼という被害がありました。

(これらの災害にたいして現地からの要請に応じ、クリスチャン パートナーズとして洪水見舞いに10万円、火災見舞いに5万円を送金しました。)

私たちが災害に遭った時に、送られた支援に心から感謝しています。それによって私たちは飢餓の危機を免れ、さまざまな負担を軽減されたことを報告します。

神に仕えることは容易ではありません。そのためにクリスチャン パートナーズの皆様が続けられている支援の業に改めて感謝し、今後とも継続してくださることを願っております。皆様の上に、さらなる神の祝福がありますように。

祈りのお願い：プロジェクトに携わる者たちとその家族のために

伝道者・理事たちのために

交通手段が充実するように

財政報告：山羊15頭の購入と運搬、指導者養成、養護施設維持費用、伝道旅行費用など

合計8,125セディ c



学校に集まる子供たち

キーハジヤル君卒業

(「通信」第96号3ページと、第102号3ページ参照)

教育大学で、教師になる希望を持って学んでいたキーハジヤルは、卒業論文が受け入れられて、この春無事に卒業したとのこと。支援者宛ての礼状が届きました。

「日本にいらっしやいます支援者の皆様と、ご紹介くださった高橋めぐみ先生に、感謝の気持ちを申し上げます。

入学当初から卒業まで学費の援助をいただき、4年間の学ぶ機会を与えられたことを、神様に感謝しております。勉強がしたい、教育者として働きたいという希望を持っていても、経済的に実現できなかったなかで、皆様のご支援でその機会を与えられたことは一生忘れません。日本にいらっしやる皆さんと、いつかお目にかかりたいと願っています。

神様のお恵みがいつもありますように。

キーハジヤル Kihajar」



早速、就職活動開始のキーは、同じくグロリア寮Ⅱ出身のフィリップ(エンティコン教育大学卒)とともに、出身村のバタットラマの小学校に就職するため、県知事に働きかけているそうです。

キャップ・ガウン・メダルに証書を持つ正装のキーと家族

キーの卒業に替わって、新しく大学入学の希望がかなったシャウリン(Siauling)をご紹介します。(2000年1月2日生まれ、中国系)

両親はカトリック信者ですが、彼女は中学生の頃からプロテスタント教会に通うようになり、聖書に親しみ、教会での奉仕活動に熱心になり、今はプニティ・アナスタシス教会員です。

タンジュンプラ大学への推薦入学が実現し、奨学金もあるそうですが、ポンティアナック市での下宿生活は経済的に大変なので、高橋先生のご依頼に副って、クリスチャン パートナーズは今後も支援を続けることにしています。



~~~~~

【理事会報告】第206回理事会は2019年5月13日(月)一ツ橋学会館で開催。高須氏の陪席を得て、ホームページ改訂協議継続。2019年01・02・03月度会計報告承認。「通信」103号は5月13日発行。第207回理事会は2019年07月22日(月)一ツ橋学会館で開催。ホームページについて高須氏と詳細に協議。2019年05・06月会計報告、2018年度決算・2019年度予算承認。「通信」第104号の内容は1918年度ガーナ報告、奨学生の近況と会計報告で、発行は次回理事会後の予定。第208回理事会は2019年10月21日(月)一ツ橋学会館で開催。ホームページについて高須氏を交えて再度協議。2019年07・08・09月会計報告承認。神田理事のお勧めで、理事会の開催場を次回より日本基督教団洗足教会の会議室に変更する。第209回理事会は2020年1月20日洗足教会で開催予定。

\*\*\*\*\*

〈編集後記〉来年早々には、新しいホームページをお目に掛けられると思います。ご期待ください。

鳥海百合子